



議会だより

元・小豆島町
土庄町

とのしよ

No.50

contents

- 町議会の動き(9月定例会) … 2～3P
- 7月臨時会 …… 3P
- 常任・特別委員会の活動 … 4～8P
- 一般質問 …… 8～11P
- 議会日誌・50号を迎えて ほか … 12P



平成24年
11月5日発行／第50号



10月11日消防車試乗・見学（子育て支援センター行事）

9月定例会 一般会計など補正予算可決

平成24年度補正予算内訳

(単位：千円)

会 計 名		補正額	補正後	説 明
一 般 会 計		102,868	6,878,720	主な事業 ● 瀬戸内国際芸術祭事業 17,551 ● 自然災害防止事業 17,000 ● 緊急雇用事業 （芸術祭・食プロジェクト） 7,448 ● 修学資金貸付事業 4,020 ● 環境対策事業 24,941
特 別 会 計	簡 易 水 道 事 業	3,157	27,565	送配水管布設替・施設等修繕費
	国民健康保険事業	6,495	2,019,925	国庫負担金等返還金
	介 護 保 険 事 業	7,608	1,545,719	国庫負担金等返還金
	福祉サービス事業	115	134,717	システム改修委託料

9月定例会は、9月19日から21日の3日間の会期で開かれ、平成24年度補正予算5件、条例関係3件、その他4件、人事案件3件、選挙1件、また議員発議による条例関係1件、「決算特別委員会の設置」が提出、いずれも原案どおり可決、承認しました。また意見書1件を可決しました。平成23年度決算認定については、決算特別委員会に付託し、12月までの継続審査としました。

◆ 条例関係の議決 ◆

土庄町防災会議条例
土庄町災害対策本部条例の一部を改正

災害対策基本法の改正に伴うもので防災会議と対策本部の役割を見直すもの

土庄町多目的グラウンドの設置及び管理に関する条例を制定

中央グラウンドと大鐸・大部・戸形小学校のグラウンドを効果的に管理や運営をするため

議員発議による条例改正
土庄町議会委員会条例

債権管理室が設置され、所管する常任委員会を定めるため

◆ その他 ◆

過疎地域自立促進計画の変更

公立病院の再編について、過疎地域自立促進計画への位置づけ

◆ 人事案件 ◆

◆ 固定資産評価審査委員会委員の選任

・ 土庄町大部
田口隆司氏 同意
(石井好輝氏の後任)

◆ 土庄町教育委員会委員の任命

・ 土庄町上庄
山崎勝美氏 同意
(佐伯達也氏の後任)
・ 土庄町甲
堂山盛也氏 同意
(雑喉平二郎氏の後任)

◆ 土庄町選挙管理委員会委員と同補充員の選出

○ 選挙管理委員会委員
・ 住所 土庄町馬越 福原昌文氏
・ 住所 土庄町伊喜末 木下孝司氏
・ 住所 土庄町上庄 湊京子氏
・ 住所 土庄町黒岩 山下通代氏

○ 選挙管理委員会補充員
第1順位
・ 住所 土庄町甲 笠井仁氏

第2順位
・ 住所 土庄町淵崎 大谷和子氏

第3順位
・ 住所 土庄町大部 岡崎ふじ子氏

第4順位
・ 住所 土庄町豊島家浦 木村修氏





委員長 濱 中 幸 三
副委員長 山 崎 勝 義
委 員 福 本 耕 太
佐 々 木 邦 久
山 本 良 熙
川 口 幸 路
三 枝 邦 彦

9月定例会において、議員提案による決算特別委員会が設置されました。
この委員会で住民の税などを財源にした予算が、行政・経済・住民福祉の向上にどう反映されたかを調査検討し、次年度の予算編成と財政運営に反映させていきたいと考えています。

決算特別委員会を設置

◆意見書の議決◆

地球温暖化対策に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書（要約）

地球温暖化防止のための温室効果ガスの削減は、重要かつ喫緊の課題となっており、森林のもつ地球環境保護、国土の保全、水資源の涵養、自然環境の保持など「森林の公益的機能」に対する国民の関心と期待は大きくなっている。

このような中、「地球温暖化対策のための税」が平成24年10月に導入される一方、「森林吸収源対策などの地球温暖化対策に関する地方の財源確保」は、「平成25年度実施に向けた成案を得るべく更に検討を進める」とされている。

もとより、森林の整備・保全等の森林吸収源対策や豊富な自然環境が生み出す再生可能エネルギーの活用などの取り組みを、山村地域の市町村が主体的・総合的に実施することが不可欠である。

しかしながら、これらの市町

村では、木材価格の暴落・低迷や林業従事者の高齢化、後継者不足など厳しい情勢にあり、森林吸収源対策などの地球温暖化対策に取り組むための恒久的・安定的な財源が大幅に不足している。

よって、次の事項の実現を強く求めるものである。

記

二酸化炭素吸収源として最も重要な機能を有する森林の整備・保全等を推進する市町村の役割を踏まえ、「地球温暖化対策のための税」の一定割合を、森林面積に応じて譲与する「地方財源を確保・充実する仕組み」を早急に構築すること。

【全員一致で可決し、関係機関に提出しました】

◆7月臨時会で決まったこと◆

7月臨時会が7月30日に開催され、補正予算2件、工事請負契約の締結1件が可決されました。

(単位：千円)

会 計 名	補 正 額	補 正 後	内 容
一 般 会 計	20,496	6,775,852	一般廃棄物処理施設委託料 10,196
			大鐸財産区特別事業繰出金 4,000
			河川等維持管理費 6,300
大鐸財産区特別会計	4,000	14,091	財産管理事業（倉庫建築）

○工事請負契約の締結について

・唐櫃漁港港整備交付金事業浮棧橋建設工事

請 負 代 金 8,032万5千円

工事請負人 株式会社田中海事 代表取締役 田 中 友 明

9月議会委員会付託議案審査(9月19日)

総務建設常任委員会

総務課

消防団運営事業は、消防団に160個の携帯用

投光器の購入や、淵崎分団上庄班の積載車軽トラック購入のための助成金、消防団施設維持管理費は本町の消火栓移転費用に係るものである。災害対策事業は、旧法務局土庄出張所跡の施設を臨時防災拠点施設として使用するための費用で、2階フロアーに臨時対策本部室を設置し、1階の車庫倉庫は備蓄倉庫とする。

土庄町防災会議条例や土庄町災害対策本部条例の他、規約の改正などの説明があった。

《問》臨時防災拠点施設(旧法務局土庄出張所跡)の利用および維持管理について

《答》必要最低限の水道、電気、電話料などが

発生するが、防災の拠点としてなくてはならないものであり、防災情報の収集・伝達が行える施設として必要である。

農林水産課

《問》耕作放棄地の再生対策事業は、山の近辺を再生するということだが、県道の近くの耕作放棄地を再生した方が効率が良いのではないか。

《答》事業主体が実施する農地になるので、借地などの設定が出来たところについて再生作業を行う。事業費は、山林化した農地を再生するため、面積に応じて算定している。

また、オリーブ生産拡大推進事業について、オリーブは生産性が合わないという意見があるが、企業が6次産業化を目指して実施するもので、これまで保有している農地と合わせて栽培の計画を

しているとの説明があった。

《問》瀬戸の農村いきいき体験支援事業は、どのような選定方法を取っているのか。

《答》県の事業であるので、対象の民泊事業者に県が事業説明をした後、取り組みを行いたい事業者から実施計画が出され、それを県が承認して、事業を実施するものである。

《問》豊島で行われる事業が多いようであるが。

《答》豊島が離島振興法の対象地域であることと、瀬戸内国際芸術祭があることから、今は、豊島の事業が増加している。

税務課

賦課徴収事務費の補正は、個人住民税、法人住民税、固定資産税の還付が発生したため補正を計上するとの説明であった。

《問》税の還付期限は。

《答》地方税法上は5年だが、納税者の不利益を補てんし税行政への信頼を確保するため、「土庄町固定資産税等過誤納還付金取扱要綱」を策定し、5年を超えて還付している。

商工観光課

観光事務費は来年の芸術祭のための打合せ旅費、観光団体・イベント助成事業は小豆島観光協会の負担金、緊急雇用事業は、瀬戸内国際芸術祭2013のための臨時職員賃金と芸術祭に向け小豆島並びに豊島の観光マップを町独自で作成、印刷する費用とのことであった。

瀬戸内国際芸術祭事業は、県外旅費や瀬戸内国際芸術祭の新規プロジェクトとして、小豆島の玄関口土庄港に恒久作品の設置、石の絵手紙ロード制作の委託料や、小海の大坂城残石記念公園で開催予定のこども農村歌舞伎に向けての諸経費などである。

《問》さぬき歌舞伎まつり事業は、肥土山農村歌舞伎保存会が、11月の琴平町旧金毘羅大芝居金丸座「さぬき歌舞伎まつり」への参加を決定したため、観光物産販売・観光PRなどの費用であるとの説明があった。

《問》レンタサイクル事業の財源などの詳細は。

《答》今年度の緊急雇用補助金を利用した場合に、これまでの収益の返還義務が発生するため、積み立ててきた基金を活用して事業の継続を行うことに変更した。



↑『寄贈された石の絵手紙』(土庄町役場)

来春開幕する瀬戸内国際芸術祭2013に合わせ、「石の絵手紙ロード」が整備される
小海の大坂城残石記念公園～大部までの海岸沿い約2km

建設課

自然災害防止事業（河川）は、灘山川と灘山東川（ひがしがわ）の導流堤工事である。千軒海岸の県営海岸整備事業は、負担金で、港湾施設維持管理費は、土庄港務所2階のエアコン取り替え修繕費と清掃委託料である。都市下水路維持管理費は、宮ノ下ポンプ場の地下重油タンクの油量計の故障修繕を実施するとの説明があった。

《問》千軒海岸の県営海岸整備事業の内容は。

《答》延長40mの養浜工（海砂が逃げないように石を並べる）を実施する。

水道課

簡易水道事業特別会計の歳入は、前年度決算により黒字になった額を当年度の歳入に繰越金として増額補正する。

歳出は、公課費として消費税及び地方消費税の不足分と、甲生浄水場などの施設等修繕費、家浦

浜地区の石綿管布設替えの工事費を増額補正するものである。

企画課

土庄町過疎地域自立促進計画の変更について、小豆医療組合の設立に伴い、計画に係る事業費などを組合負担金として過疎計画へ盛り込むためのものであり、計画に定めなければ、事業に係る地方債の借入れなどができないため変更する。

教育民生常任委員会

福祉課

○修学資金貸付事業

新規申込者の増加に伴う貸付金の増額補正と公立病院再編整備事業に係る財源更正（一般財源から過疎債への財源更正）。

○国民健康保険事業特別会計

【保健衛生普及事業】ジェネリック医薬品の使用促進に係る事業費と

前年度分の精算に伴う返還金の増額補正。

○介護保険事業特別会計

基金積立見込み額の減少に伴う積立事業の減額補正と前年度分の精算に伴う返還金の増額補正。

《問》国保および介護特別会計の前年度精算に伴う返還金は。

《答》国費などの交付申請から翌年度精算に至る事務手続きの流れの説明があった。

住民環境課

戸籍住民基本台帳事務費の補正は、正規職員の見減による臨時職員の賃金、環境衛生費は、豊島の産廃視察用マイクロバスのバッテリーの修繕費、一般廃棄物処理施設のし尿処理施設整備に関し、基本合意した小部自治会への地域振興対策事業としての事業のうち、宝くじ助成金を差し引いた助成という内容であった。

《問》小部への対策事業

の総事業費は、3,808万7千円であり、合意金額1億3千万円からその金額を差し引くのではないのか。

《答》宝くじ事業による自治会館建設は、小部自治会が町との協議前より進めていた事業であり、合意により自治会負担分を助成して欲しいということであった。今後は、総事業費を合意金額より差し引いていく。

《問》1億3千万円は、15年間での対策費であり助成金額の根拠は。

《答》単純に割れば年間1千万円弱になる。町の財政状況を考える必要があるが、要望事業の内容により増減はしかなない。

健康増進課

補助金を活用した虐待防止事業の拡充とアンケートの実施、妊娠届の提出状況や健診料改正を勘案した15名分の妊婦健診助成の増額、小学4年生を対象とした小児生活習慣病対策事業としての血

液検査を実施する。

《問》虐待防止事業関係での船舶借上料の内容は。

《答》虐待発生時、緊急避難措置として、高松市にある香川県子ども女性相談センターへの避難の際に利用する海上タクシーの借上料である。

【介護保険事業特別会計】

一人暮らし高齢者対策事業において地域住民による見守り活動支援についての説明があった。

《問》事業実施地区で、北浦地区の選定理由は。

《答》研修を受けた地域住民の希望をもとにまずは北浦地区を中心とし、今後、他の地域へも支援を拡大していく。

【福祉サービス事業特別会計】

介護予防支援事業での、介護保険法改正に伴う介護システムの改修。



子育て支援センター 8月30日視察

教育総務課

教育振興事業の消耗品は、毎年、長栄又造さんのご子息である長栄暁（のぼる）氏より寄付をいただいております。四海小学校の図書購入に充てる。中学校維持管理費は、平成16年に導入した土庄中学校の教師用パソコンのサーバーが壊れたため新たに買い替えようとするもの。

《問》長栄さんからは、小学校が統合しても寄付を続けていただけなのか。

《答》長栄さんには直接小学校の統合について説明はしていないが、統合

しても寄付を続けていた
だけるようお願いした
い。

《問》パソコンのサーバ
ーは、バックアップ機能
がついてこの金額なのか。

《答》すべて含めての金
額を計上している。

生涯学習課

文化財補助事業で北山
にある国の特別天然記念
物「宝生院のシンパク」
保存のため、除草などの
植栽管理を委託する。

公民館維持管理費は、
豊島公民館のトイレを足
腰の弱い高齢者の方や車
いすなどの障害者の方か
らの要望で洋式トイレに
変更する。

中央図書館維持管理費
は、小豆島ライオンズク
ラブからの寄付金による
図書購入費である。

体育施設維持管理費
は、総合会館の冷温水器
真空ポンプの修繕費であ
る。

土庄町多目的グラウン
ドの設置及び管理に関す
る条例は、大部、大鐸、

戸形小学校が再編され、
校舎や施設の位置づけが
不明確であった。そこで
大部、大鐸公民館が整備
されたことに伴い、小学
校跡地にあるグラウンド
を社会体育施設の中央グ
ラウンドと同じ位置づけ
とし、新たに「多目的グ
ラウンド」にするという
説明があった。

《問》豊島公民館の洋式
トイレは男女便所1台ず
つなのか。

《答》共用で1台である。

反対討論・賛成討論

◆平成24年度土庄町一
般会計補正予算

反対

福本議員

・衛生費（診療所費）
拙速な公立病院の統廃
合と計画性のない建設に
対し、反対する立場から。

・商工費（瀬戸内芸術祭
事業委託料）
町財政が厳しい中、土
庄港にモニメント、装

賛成

濱中議員

妥当と思われる。

◆土庄町過疎地域自立促
進計画の変更について

◆香川県市町総合事務組
合を組織する地方公共団
体の数の増加及び香川県
市町総合事務組合規約の
一部変更について（土庄
町、（大鐸財産区）

反対

福本議員

計画の変更内容の目的
が、新病院建設とそれを
推進するための小豆医療
組合の設立と整備にある
ことから。

賛成

濱中議員

妥当と思われる。

水道事業特別委員会

（8月28日閉会中）

肥土山浄水場更新工事の
汚泥処理方法の検討結果

フィルタープレスメー
カ3社が汚泥サンプルに
よる試験を行い、その報
告書を基に機械脱水によ
る固形物形成の有無と高
効率多段式天日乾燥床の
汚泥処理能力に相当する
フィルタープレス式機械
脱水機の機種について報
告があった。

1、今回採取した汚泥サ
ンプルの固形物形成につ
いては、機械脱水で十分
対応できる。
2、はく離性にも問題は
ないが、時間当たりの処
理能力の高い機種を推奨
された。

なお、1社からフィル
タープレス脱水機の汚泥
処理施設工事の概算の提
示があった。

進道路路拡幅について

改良を実施する道路拡
幅の施工延長は167.4

病院再編調査特別委員会

（9月3日閉会中）

小豆新病院建設の経過
と今後の予定について

一部事務組合では、4
月に公立病院再編準備室
を設置し、6月に一部事
務組合として「小豆医療
組合」が設立された。

香川大学医師などとの
実務者協議は、随時、小
豆医療組合の事務局が行
っている。

両病院の医師、看護師
などによる検討部会は、
新病院の規模、診療科、
必要とされる機能や室数
などについて、協議を行
っていて、その協議結果
が基本計画の主要な内容
になる。基本計画は、今
後、基本設計、実施設計
を委託する際の基本条件
となる。

両病院の検討部会、ワ
ーキンググループの検討
は、ほぼ終了し、基本計
画の素案のとりまとめも
最終段階になっている。

6月27日から設計者公
募・選定を行っている。

9月中には設計業者と基本設計、実施設計の契約を締結する予定となっている。工事の入札は平成25年度の終盤。2年程度の工事期間を経て、平成28年度の前半に開院予定である。

【質疑応答】

《問》責任者は。

《答》香川大学から新しく院長先生になる方を招へいする予定であるが、決定はしていない。

現在のワーキンググループの責任者は両町の両病院の院長。最終的には医療組合が権限を持つ。

《問》地質調査はグラウンドだけになっているが、校舎を潰さない施設に狭いのではない

か。また、校舎は耐震化したばかりと聞くが。

《答》小豆島町の施設であり交渉されている状況は、グラウンドに病院の本体を建て、駐車場をどれくらい配置できるかなど協議中である。

耐震改修をしたばかりなので、子どもがいなく

なれば、即取り壊すという事は、打ち出せていない状況である。

また、小豆島町の教育委員会が26年4月には池田中学校と内海中学校を統合する方針を出している。4月以降、子どもさんはいないと思う。駐車場は、校舎を取り壊さなければ不足すると思われる。



小豆新病院（仮称）新築工事基本設計及び実施設計業務の設計事業者の決定について

◆設計業務の委託◆

設計事業者 名 称 株式会社 安井建築設計事務所
所在地 大阪市中央区島町2-4-7

契 約 日 平成24年 9 月24日（基本設計）
平成24年10月10日（実施設計）

契 約 金 額 2,835万円（基本設計）（消費税込み）
5,040万円（実施設計）（消費税込み）

契 約 期 間 平成24年 9 月24日から平成25年11月30日
（建築確認完了までの予定期間）

新小学校調査特別委員会

（7月30日閉会中）

新設小学校の工事進捗状況

実施設計は、基本設計をもとに各学校の先生や事務員、用務員さんなどの意見を参考に設計を進めている。

5月に校舎の建設予定地の雑木の伐採を実施。

また、7月には今年度の工事3件の入札をした。

①用地造成工事（県工事から搬入した土砂を整地）

②進入路改良工事（町民プール側からの中学校への教職員の進入路の舗装工事）

③給食センター横の溝のフタ掛けと小豆総合事務所から進入路へのスロープの設置工事

アパート6棟の解体と伐採した樹木の処分を含む造成工事の発注は、現在設計中。

【質疑応答】

《問》生徒の進入路は。

《答》給食センター横の道路から進入する。歩行者と車両を分離し、交通事故防止に努める。

《問》正面玄関に入る道路の幅員は。

《答》床板をかけて5mになる。

《問》県事務所前の保健所のところにスクールバス駐車場となっているが、これは県事務所の駐車場と共用なのか。

《答》スクールバス専用となる。

新設プールは

25mプールの5コースから7コースまでの各平面図と工事の概算額、また材質の安全性、衛生面、維持管理、建設費などの検討結果の説明を受けた。

【質疑応答】

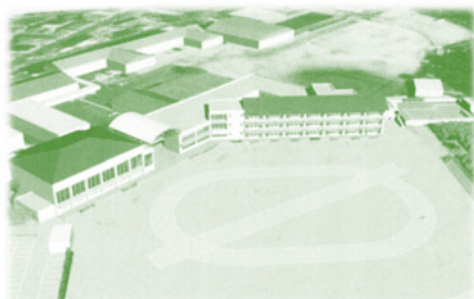
《問》前回の委員会では、5コースで時間割を

やりくりすれば使用可能と言われていたが。

《答》5コースを1学級で全部を使う計画であったが、7コースになれば2つの学級が同時に使える。授業の組み立てからすると非常に利便性が高くなる。

委員から

地元の業者にも受注できるようなシステムを今後考えていただきたい。実施設計と同時に地元の雇用対策、経済対策を今後検討して欲しいとの意見が出された。



→ 校舎全景イメージ

観光振興特別委員会

(7月31日閉会中)

フェリー問題について

香川県丸亀市で実際公設民営で運航されているフェリーについて、概略説明を受けた。

国土交通省の「離島航路構造改革補助制度」を活用した全国初の取り組みにより建造したものである。

ただ、この制度を利用して建造すれば、鉄道建設・運輸施設整備機構側と船舶を共有することになり、機構に対し毎月船舶使用料を支払うことになる。

【質疑応答】

《問》乗船実績は。

《答》少子高齢化が非常に進んでいて、客数についてはほぼ横ばいというように聞いている。

《問》離島航路30%の補助制度は、小豆島では対象になるのか。

《答》ならない。豊島の

みである。

《問》小豆島を離島扱いにするという話はないのか。

《答》国との協議の中では到底不可能な話で、今のところは止まっている。

《問》現行の法律の枠を変えない限り離島の指定は難しいのか。

《答》船便が3便以上あれば無理。今回離島振興法を延長したが、その中に一切つたわっていない。

委員会では

フェリー問題は、国の補助金制度、公設民営方式等々に対し、今後も継続して協議をしたい。

観光地の掘り起こしについて

・戸形小学校の跡地を利用し、来年の瀬戸内国際芸術祭の作品展開の場所として活用して欲しい旨、芸術祭実行委員会へ強く要望する。

・豊島美術館、島キッチンを現在策定中の土庄町

観光振興指針の中に入れる予定にしている。

・来年の瀬戸内国際芸術祭では、石のプログラムプロジェクトで大坂城残石記念公園などを舞台にイベント、シンポジウムなどを開催する。瀬戸内の石切丁場や大坂城の石垣、小豆島石について、海上運搬の技術などを、研究する予定である。

また土庄港付近での展開、土庄本町（迷路のまち）での空き家、路地を使って、地域の歴史を感じさせる作品を展開する。

そのほかに、トライアスロン再開、スポーツ観光、高見山の活用についての意見があった。



「島キッチン」安部 良 撮影：中村脩



上川正衛 議員

希少野生生物の保護について

上川 「ジョウドシマレンギョー」「カンカケイニラ」など、島の自然史を語る貴重な動植物が、小豆島には数多くある。

この世界でも貴重な動植物は、放っておけば無くなっていく。国・県だけに任せて良いのだろうか。かけがえない自然は、一度壊してしまったら再び元の姿に戻らない。これらの動植物をわが町、そして島の大きな宝物として、今後とも、より一層保護にむけて真剣に踏み出すべきと考えが。

住民環境課長 自然の価値を深く認識し、その恩恵を永遠に享受できるように自然を保護することを

9月定例会 一般質問事項

町民ともに、共通の責務として最善の努力を払わなければならない。

町は、絶滅という後世に取り返しのつかない状況を避けるため、県が推進する保護事業に積極的に協力し、植物の生育状況とその保護の必要性について啓発を行うなど、小豆島全体の問題として小豆島町とともに取り組んでまいりたい。

上川 新聞に、宝生院の「シンパク」は、特別天然記念物であるが、天然記念物のうち、特に世界的・国家的価値が高いとされるものが特別天然記念物で、植物では花や森を含めて31件が指定され、そのうち1件が土庄町に存在するという新聞記事があった。

小豆島の中にあり、このような希少な個体である事は、皆さんによく知られていない。そういった意味で、啓発活動は非常に大事な事だと痛感した。県の「カンカケイニラ保護事業5か年計画」で平成20年度から24年度

まで希少予想植物保護対策専門委員会の開催、そして人工増殖と移植、調査・モニタリング、普及啓発とある。普及啓発は、「カンカケイニラ」と寒霞溪周辺の自然環境に関するセミナーの開催、地元町、地元団体、地元住民の連携による保護体制整備と細かく計画されているが、これらの保護事業に土庄町が参加した事はあるのか。

住民環境課長 町として参加したことはないと思う。

上川 保護事業に積極的に取り組む姿勢であるならば、進んで県に働きかけ、小豆島町とも歩調を合わせて、島の大きな大事な宝物である希少野生生物の保存に向けた事業を安定的にできる体制づくりをぜひお願いしたい。



山本良熙 議員

小学校統廃合後の学校跡の利用計画について

山本 土庄・洲崎・北浦・四海の各小学校を統合に向けて、新小学校の建設事業が着々と進められている。

前回の統合では、小学校の跡地には立派な施設が出来上がり、地元住民の活性化になり大変喜んでいる。

新小学校が開校した後、小学校の跡を町はどう取り組むのか。

総務課長 各小学校の跡地利用は、大部・大鐸・戸形小学校の跡地利用と同様の方針に基づいて進める。

まずは、小学校ごとに自治会や地域の住民の皆様のご意見、ご要望をお伺いし、協議を行っていく。

跡地利用計画の案がない場合は、町が公募により民間利用計画を募集する。それでも確定しない場合は、町が跡地利用計画を検討する流れになる。

山本 地元協議という事だが、今後の財政事情を考えると、町の小学校跡地の売却も考えていたきたい。また一つの提案で洲崎小学校は、津山藩の代官所（陣屋）があった跡である。この陣屋を復元するための用地として確保し、復元できれば観光に大いにプラスになるかと思う。他にもいろいろ病院の跡、幼稚園、保育所など関連があるもので、行政がリードしていただきたい。

町長 小学校再編は、大部また大鐸、戸形と実施してきた。その時の皆さん方の地域のご意見、小学校がなくなると子どもたちの声も聞こえなくなる。過疎に拍車がかかる。そういう事で地域の元気がなくなる。それで大鐸と大部には

老若男女、お年寄りも子ども達も集まる場所を作った。そういう地域のコミュニティの拠点を作ったという事が、一つの大きな流れになると思うが、これはやはり地元、北浦・四海・洲崎・土庄地域の皆さん方のご意見が大事である。そういう意見を尊重しながら、この地域には何が欲しいか。幼稚園の問題、保育園の問題、ご提案の陣屋の跡地の問題等々もあると思う。

また福祉の施設を作っで欲しいという意見もある。そういう地域の皆さん方の要望をまず聞いて行こうというのが、町として一つの基本方針でもある。そういう中で、地元の皆さん方との協議は、これから密接にやっていきたい。

高校の統合

濱中 先日、香川県が、2町の統合高等学校の建設予定地を土庄町の上庄、小豆島町の蒲生としていると同った。

今年に入り、私たちは百歩譲って、小豆島町の池田に2町の負担で新しい病院を建設することを了承した。土庄町からの通院は不便になり、豊島からはさらに不便になる。

今回は、小豆島町が百歩譲って、2町の間地点であり、交通の便が一番良い現在の土庄高校の位置に新しい高校を作ることとを了承することが、理にかなわない人の道であると思う。香川県に対して、新しい高校を現在の土庄高校の位置に建築されるよう町をあげて強力に働きかける事を提案する。



濱中幸三 議員

町長 県の教育長が、塩田町長と私に「県としては、上庄地域と東蒲生を校地と予定している」という提示があった。

しかし、交通の一番便利な場所、さらに安全性、街中にあることなどを含めて、現在の土庄高校の校地に再生した高校を持つてきたいという事で、強力に香川県教育委員会、特に高校教育課には陳情している。私の意志としては、土庄高校跡地一本でいこうという気持ちである。

南海トラフ地震(M9.1)への備え

濱中 この地震による香川県の被害は、死者3,500人、家屋の倒壊は55,000棟と予測されているが、

・町内の被害は、どの程度の予測なのか。

・ライフラインの確保は具体的に進んでいるのか。

・地震に備え、家屋の倒壊防止の耐震診断や耐震工事は進んでいるか。

・地震による火災予防や消防活動の検討はできて

いるか。
・町内の各公民館には、水や食料、毛布など最低限必要なものは備えられているか。

総務課長 今回の想定では市町別の住宅被害、死者数などの被害想定は行われておらず、本町における具体的な数字は公表されていない。

現在約1,500食分の食料と水約2,000リットル、毛布120枚の備蓄を本庁にて行っている。今後、各公民館への備蓄についても検討する。

民間住宅の耐震診断や耐震改修に要する費用に対し、補助制度がある。

今年度中には、香川県において国の想定を基に県内市町の被害想定が予定されていて、本町はその詳細な想定公表を受け、津波ハザードマップなど、早期に対策を検討したい。



山田建之 議員

豊島簡易水道統合に伴う基本設計業務委託契約について

山田 簡易水道の指名競争入札業者はどう選定したのか。また豊島の簡易水道に対してどういう形でこれを発注する状況になったのか。

制度を活用するため、今年度に基本計画を策定することになっている。基本計画策定に伴う業務委託の設計書を作成するため、見積依頼後、7月にコンサルタント6社による指名競争入札を実施し、決定した。

山田 肥土山浄水場更新工事に伴う基本設計・実施設計で問題の業者に再度簡易水道の基本設計を依頼しているのは、その業者と癒着体質があるのではないか。

町長 癒着はない。これは断言する。

山田 その業者に発注した事で、土庄町が損失を被る訳である。その場合どうするのか。

町長 肥土山浄水場に対する過剰な設備計画に関しては、力強いチェックにより改善され、適切な設備投資となることに心から感謝申し上げる。

今後とも万全なチェック体制をとりながら精査

していききたい。さらにその業者が、豊島の簡易水道の業務委託を落札したのは法的には問題はないが、やはりまだ問題がある肥土山浄水場の業者を入れたということに関し、水道課に指令をした。

水道課長 水道事業特別委員会、肥土山浄水場更新工事の汚泥処理方法などを検討協議した結果、汚泥処理方法は、機械脱水方式と天日乾燥床の併用にするべきとの方針が出された。また9月4日に監査委員による臨時監査が開催され、業者の事情説明があったが、監査委員の疑念を払拭するには至らなかった。水道課は、契約締結をした豊島簡易水道事業統合に伴う基本設計業務委託の契約を9月7日付で一時的中止の申し入れをしている。

山田 肥土山浄水場でそういう問題点を抱えている状況の中で豊島の簡易水道の件を、中止と言う事は当然の処置である。



山崎勝義 議員

放課後子ども教室について

山崎 内閣府の南海トラフ地震被害想定を発表で、香川県の犠牲者が最大で3,500人、土庄町では震度6、津波3mと発表があった。

津波による犠牲者は、高台への避難によって最小限に防ぐことが出来ると思うが、地震による家屋、校舎などの倒壊は防ぐことはできない。6月議会で質問した四海小学校、旧図書館の耐震化の概算金額はいくらか。また、それに伴い平成25年度に耐震化工事の実設計料や工事費の予算は計上するのか。

教育総務課長 四海小学校の場合、昭和46年建設、鉄筋コンクリート造2階

建てこれに伴う、耐震診断料は、約181万5千円、その結果から構造補強計画に56万2千円かかる。耐震補強工事の実設計が160万円である。耐震補強工事と工事の監理委託料がそれぞれ5,175万円と150万円必要で、事業の総合計は、5,722万7千円となる。旧図書館は昭和45年建設、462㎡の耐震化の概算金額は、1,624万9千円となる。

これはあくまでも耐震診断の結果が悪い場合で、もし耐震性があれば、工事の必要はない。

生涯学習課長 現在、放課後子ども教室は、町内各地区で教室を運営している。

平成27年4月には新しい小学校が開校し、児童の通学路や通学の方法も現在とは変わってくる。

また土庄、洲崎、北浦、四海の各小学校も廃校となることから、子ども達を取り巻く環境は、大きく変化するものと考えている。

このような点を踏まえ、現在の放課後子ども教室を将来にわたり継続できる制度にするため、教室の将来のあり方について協議、検討する中で、図書館などの施設の耐震化を考えていきたい。平成25年度は新小学校の建設が始まる。平成25年度には耐震化は困難だと思う。

山崎 子どもは国の宝だ。いつ地震が起き、子どもが犠牲になるかわからない。

生涯学習課長 決して児童の事を軽視した訳ではない。

山崎 四海小学校や旧図書館は耐震化すると事業費が概算で6・7千万円もかかる可能性がある。それなら新小学校の横に別棟で子どもたちを預かる施設を建て、そこで子ども教室を実施すれば良いのではないか。そういう事を考えていただきたい。



川本貴也 議員

瀬戸内国際芸術祭2013への取り組み
川本 一人でも多くの方に宿泊をしていただくよう滞在型観光の提案が、ぜひとも必要であると考え、町の取り組みは、

商工観光課長 アート作品と設置場所は、土庄港に韓国の作家が、バブリックアートを設置する。その他の作品は、本町迷路のまち、肥土山・小海・豊島地区などを予定している。移動手段（海上交通・島内交通）の充実も検討している。

また、土庄港など、各拠点となる案内所の設置、「食」や「宿泊」に対する需要への対応、島での楽しみ方や広域的なモデルコースなどの設定、外国人観光客の受け入れ増加を踏まえた案内

川本 徹底的な調査はどの程度されたのか。改善策の説明がない。

同様に瀧崎小学校でビニール片の混入があった。異物混入のあったその後すぐ調査、改善策の対応をしておれば2件目は未然に防げたのではない。

教育総務課長 給食センター、学校関係者、食材の搬入業者などを調査したが、原因究明に至っていない。今後は、引き続き職員への指導、食材の搬入、搬出等の点検を徹底するなど、安心・安全な学校給食が継続して提供できるよう、努力していきたい。

学校給食の現状について
川本 瀧崎小学校で学校給食の異物混入が確認されたが、その後、どのような調査を実施し、また改善策をとったのか。

表示、パンフレット作成などインフラ整備を検討し、滞在中の観光客が一人でも増えることを期待している。

いか。原因究明に努め、改善策を徹底してやられるのが、当然の務めだと思うが。

藤本教育長 あらゆる形で再発防止に向け、給食センター、学校、共々力をあわせて取り組んでいるので、ご理解をいただきたい。

川本 最初は原因が究明できたからという安易な考えのもとに2回目ที่เกิดขึ้นたのではない。もし仮に1回目の際に、他の異物混入の可能性もしっかり検討して万全の態勢、対応をしておれば2回目は防げたのではないか。

何回も何回も、これ以上しても足りないというくらいの点検・確認が必要ではないか。

藤本教育長 調理の際の服装や、衛生管理、様々な点検を厳重にして再発防止に努めたい。

乳幼児医療費無料化年齢の引き上げについて

福本 3月議会では、年間450万円（概算）の上乗せで、中卒まで子ども入院費が無料にできる事が明らかになった。すでに実施している県内他自治体の制度設計の研究について取り組みを報告してください。

福祉課長 他市町の実績や制度設計について調査、研究したい。

国保税増税に根拠なし。法定外繰入を実施せよ。

福本 今日の不況と福祉切捨て政策の下で、国保加入者の多くが所得減少と重税に生活不安を感じている。現行の国保税は、年間で一か月分の給料と同額、またはそれ以上の負担となっていて、過重

負担は町も認めている。国保は、国民皆保険制度の全面実施を実現する上で、他の医療保険に加



福本耕太 議員

豊島離島航路の変更に伴う問題について

福本 来年4月より、土庄・豊島・宇野を結ぶフェリー二隻のうち一隻を旅客船に変更するにあ

町長 法定外の繰り入れは考えていない。

負担は町も認めている。国保は、国民皆保険制度の全面実施を実現する上で、他の医療保険に加

り、①毎日の宅配・速達ルートの確保②帰省・芸術祭時に起こりうる「積み残し」への対策をどう考えているのか。

また、生活に関わる重要課題は、具体化する前に住民の願いをよく聞き取り入れると共に、情報公開を重視すべきではないか。

企画課長 航路改善協議会を設置し、様々な取り組みを進めてきた。その結果小型旅客船の導入を軸とした経営改善化に取り組むこととなった。

速達・宅配については、ダイヤ編成により維持できる。

情報公開は各自治会長を通じて行う。

町長 住民の「積み残し」は起こさないよう（一般客は別）、船会社に検討をお願いしている。ゼロベースの議論はできない。

◆ 50号を迎えて ◆

平成12年8月に初めて「とのしよ 議会だより」が発行され、今回で50号の節目を迎えることになりました。

当時の議員定数は18名で現在14名、表紙は37号から「議会だよりとのしよ」となっていて、変わらないのは「えいしやばげ！土庄町」のロゴが今も継続して使われています。住みよいまちづくりを目指し、町民みんな

なで支えていくという意味合いから引用しています。議会で決定した結果を掲載するだけでなく、やり取りされた質疑や議論の様子などをお伝えして、町民の皆様にかれた議会として役割を担っていきたいと思っております。

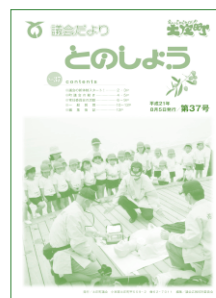
今後も少しでも多くの方に親しんで読んでいただける広報誌を目指して努力を続けてまいります。



H13.5月 4号
表紙カラーに



H12.8月 創刊号



H21.8月 37号
表紙変更

【議会広報特別委員会】

委員長	泊 満夫
副委員長	福 耕太
委員	濱 中 幸三
委員	山 崎 勝義
委員	太 田 和博
委員	井 上 正清
委員	三 枝 邦彦

議 会 日 誌

【7/1~10/31】

7 月

- 10日 議会広報特別委員会
- 19日 議会広報特別委員会
- 23日 議会運営委員会
- 30日 7月土庄町議会臨時会
- 30日 新小学校調査特別委員会
- 31日 観光振興特別委員会

8 月

- 28日 総務建設常任委員会
- 28日 水道事業特別委員会
- 30日 教育民生常任委員会

9 月

- 3日 病院再編調査特別委員会
- 12日 議会運営委員会
- 12日 全員協議会
- 19日 9月土庄町議会定例会（招集日）
- 19日 開会中 総務建設常任委員会
- 19日 開会中 教育民生常任委員会
- 21日 9月土庄町議会定例会（最終日）
- 26日 （小豆地区広域行政事務組合9月定例会）

10月

- 9日 （小豆医療組合議会定例会）
- 10日 新小学校調査特別委員会
- 12日 議会広報特別委員会
- 19日 決算特別委員会
- 24日 決算特別委員会
- 25日 決算特別委員会

議会の生の声を
聞いてみませんか！

次回定例会

12月中旬頃の予定です

詳しくは議会事務局へ
TEL62-7011

編集後記

季節がめぐるのは早いもので、秋の太鼓祭りも終わり、あっという間に今年も残り少なくなりました。

小豆新病院（仮称）は、平成28年春の開院予定で診療科目も増え、香川県や香川大学のご協力で、医師の確保も期待でき、医療の充実が今まで以上に計れます。

また、土庄町の新小学校は平成27年4月開校を目指し、土庄中学校に隣接する場所に来年の夏頃から建設が開始されます。新小学校は、震度6強の地震にも耐えられる耐震構造となっていて、子ども達の安心と安全を守れます。

今後も町民の皆様の健やかな暮らしを守るため、土庄町議会議員一丸となり、邁進してまいります。

《邦彦 記》